

◆特集1 第14回日赤図書室協議会研修会◆

医療の質向上のために — 病院図書室担当者の役割 —

池谷俊郎

抄録：2006年6月「健康保険法等の一部を改正する法律」と「良質な医療を提供する体制の確立を図るための医療法等の一部を改正する法律」が成立し、これらの法律ではさまざまな視点から医療の質を向上させるための施策がとられている。前橋赤十字病院がこれまで行ってきた医療の質改善活動において、病院図書室ならびに図書室担当者が果たした役割について紹介したい。なお、図書室担当者とは司書・司書補を含む図書室業務遂行者と理解いただきたい。

Key words：図書館関連法 医療の質 医療安全 クリニカルパス 患者図書室

I. 図書館関連法について

我が国の一般図書館に関する法律には、図書館法¹⁾および図書館施行規則²⁾があり、前者は1950年4月、後者は同年9月に定められている。図書館法の第2条には、「『図書館』とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設で、地方公共団体、日本赤十字社または民法第34条の法人が設置するものをいう（学校に付属するものを除く）。」とある。

一方、施行規則では、司書および司書補の資格に関する定めが決められており、資格取得のためには多くの修得科目が必須とされている。また、資格取得には、司書講習を修得する、大学（短大を含む）で資格取得に必要

な科目を履修する、司書補勤務経験者が司書講習を終了することのいずれかが必要である。

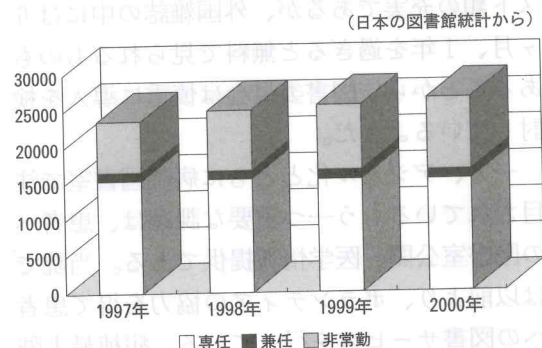


図1 公立図書館司書数の推移

日本の図書館統計³⁾によると、公立図書館での司書数は微増にとどまっており、常勤者が漸減している（図1）。自治体の財政事情による常勤から臨時職員への移行している結果であろうが、病院図書室研究会発行のデスクマニュアル⁴⁾に含まれる司書の業務は、図書館法の定めよりはるかに多くなっている（図2）。

IKEYA Toshiro

前橋赤十字病院 副院長

t-ikeya@maebashi.jrc.or.jp

病院図書室デスクマニュアル (病院図書室研究会)

- ・病院図書室の機能と役割
- ・病院図書室業務
- ・図書室のプランニング
- ・図書・雑誌の整理
- ・担当者教育
- ・文献の検索
- ・図書室とインターネット
- ・相互貸借
- ・利用者教育
- ・コンピューターでできる図書室の仕事
- ・病院図書室ネットワーク
- ・病院図書室における患者サービス
- ・初めて図書室へ勤務する人のために

図2 病院図書室デスクマニュアル

II. 前橋赤十字病院の図書室の現状

前橋赤十字病院(当院)は1913年に全国で11番目の日本赤十字社病院として設立され、現在は高度救命救急センターや、災害拠点病院などの機能を有する地域医療支援病院である。日本医療機能評価機構の認定も受け、地域における中核病院として、質の高い医療を提供すべく努力している。近年は、横断的チームによるさまざまな取り組みが行われており、職員あたりの研究研修費も漸増し続けている(図3)。図書室の蔵書数・図書費も年々増加しているが、職員が求める医療情報を自給的に提供することは不可能であり、他施設との相互貸借業務が重要な役割を果たしている(図4)。IT技術・電子媒体情報の普及による早さと利便性を理由に、1997年当院でも電子媒体システムを導入した。現在で

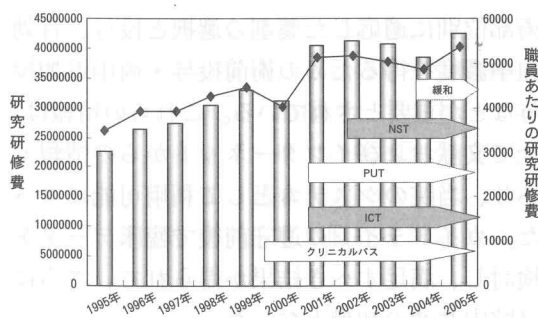


図3 研究研修費の推移

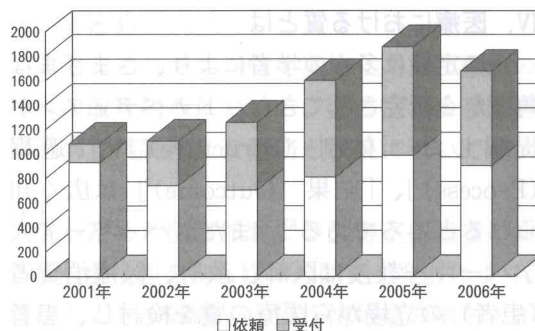


図4 相互貸借業務の推移

は4つの媒体の利用が可能であり、"Up To Date"は院内の端末からも接続することができる(図5)。これら電子媒体情報の導入は、図書室担当者が代行している相互貸借業務を減少させてきているが、収載文献数の増加により、さらに業務量を削減できるものと期待している。



図5 電子媒体情報の導入時期

III. 質とは何か

近年、質に関するさまざまな表現が日常に見聞される。吉野家の牛丼は、「早い、安い、美味しい」、宅配便は「早い、確実、丁寧」が評価の根源である。また、世界第1位の売り上げを誇るトヨタ車の人気の理由は何なのであろうか。それは "Kaizen"、すなわち優れた管理方式による質の管理の故である。産業界における総合的質管理 (Total Quality Management; TQM) により、計画 (Plan)、実行 (Do)、チェック (Check)、処置 (Action) の4つの継続の輪 (PDCA サイクル) を巡らせることが重要といわれている⁵⁾。

IV. 医療における質とは

質の定義は多くの学者により、さまざまな角度から研究されてきた。ドナベディアンが提唱した「体制 (Structure)」、「過程 (Process)」、「結果 (Outcome)」は広く知られるところである⁶⁾。また、ハーバード大学パーマー教授は医師、政府、医療消費者 (患者) の立場から医療の質を検討し、患者の健康状態をどれだけ改善できたか (医師)、講習の健康状態をどれだけ改善できたか (政府)、健康状態をどれだけ改善し満足が得られたか (患者) と定義している。

2002 年に出版された「医療の質—谷間を越えて 21 世紀システムへ」⁷⁾ では、医療改善のための目標として、安全性、有効性、患者中心性、適時性、効率性、公正性の 6 項目を挙げている。

V. 医療の質改善に果たす図書室機能の役割

上記 6 項目を当院の活動を重ね合わせてみると、安全性は医療安全の推進活動であり、有効性・患者中心性・適時性・効率性はクリニカルパス活動といえる。そこで、これらの活動と病院図書室の関与について考察した。

1. 医療安全について

患者安全のためのシステムづくりモデルとして、最も有名なのは米国医療施設合同認定機構 (JCAHO) であるが、英国の国立臨床評価サービス (NCAS)、オーストラリアの国立健康医学研究会議 (NHMRC)、カナダのカナダ患者安全研究所 (CPSI)、日本の日本医療機能評価機構がある。最も取り組みの早い JCAHO⁸⁾ は患者安全目標の設定、推奨提言、警鐘事象に関する緊急情報、診療ガイドラインを提供している。これらはインターネットで見ることができるが内容の理解には、ある程度の英語能力が必要である。最近これらの情報が日本語で翻訳され提供されるよう

になった^{9,10)}。外国の医療施設で有効性が実証済みのシステムや対策を参考にでき、他の業界で安全が確立された知恵を活用することも可能となっている。国内の情報は、日本医療機能評価機構や厚生労働省のホームページから情報収集が可能になっている。

2. クリニカルパスについて

医療の工程管理技法として、1995 年頃より我が国の医療施設が徐々にクリニカルパスを導入してきた。医療の標準化、チーム医療、医療の効率化、リスクマネジメント、インフォームド・コンセントの充実などによる医療の質の向上が導入の理由である。医療の標準化には、自施設のデータをもとに PDCA サイクルを回すことが基本的であるが、データ収集に要する期間や収集の労力が必要である。しかし、既に確認された医学的根拠 (EBM) を利用することで、時間の短縮や労力も省くことは可能であり、クリニカルパスを運営する組織には、EBM を検討する部門の設置が重要である¹¹⁾。

当院のクリニカルパス活動において、効果的に EBM を活用した事例を紹介する。米国疾病管理予防センター (CDC) の「手術部位感染予防のためのガイドライン (1999 年)」¹²⁾ では、手術準備において除毛の廃止、術前の禁煙、血糖管理などの重要性が示されている。また、手術の際の予防的抗菌薬投与には、手術部位別に適応した薬剤の選択と投与、有効血中濃度を得るための術前投与・術中追加投与などが重要とされている。これらの情報は、全て文献およびインターネットからの情報であり、当院のシステムとして利用可能になった。ガイドラインの遵守前後で臨床データを検討し、満足すべき結果が得られて、さらには院内共通の知識となった。

3. 患者図書室について^{13,14)}

臨床パス、入院時診療計画書、治療説明書などによる医療情報の提供のみで、患者さんから治療に対する納得と同意を得ることが可能であろうか。患者さん自身あるいは家族が受ける予定の医療について、十分な知識・情報を得たいという願望はどんどん大きくなっている。患者さんへの情報提供手段として、当院での患者図書室開設を考慮したが、幾つかの解決すべき問題があることが分かった。インターネットによる国内外の患者図書室情報を渉猟してみると、場所の設定、スタッフの雇用方法、運営のための資金調達の試みなど有益な情報を得ることができた。

米国メーヨークリニックでは、土曜日・日曜日がやや時間的に短いものの一週間を通じて利用可能である。書籍、雑誌、新聞、ビデオ、カセット、音楽、テープ再生装置、ファクシミリ、複写装置など提供されるサービスも多彩でかつ無料である。図書室担当者が常駐し、検索や印刷・電子媒体へのコピーを支援している。インターネットを利用できるコンピューターが7台用意され、患者および家族が利用できる。また、自分のコンピューターを持ち込んで接続できる電話回線も用意されている。利用希望者が多い場合には、45分の時間制限が設けられている。

英国ノースウィックパーク病院・セントマーク病院では、それぞれに入院する患者が共同利用できる図書室を運営しており、平日のみ利用可能である。業務は2名の非常勤図書室担当者とボランティアが担当しており、ボランティアによるワゴン車での病棟出張貸し出しサービスもある。基金調達のために、1年に2回、書籍販売や古本の販売を継続的に実施している。

VI. まとめ

以上、これまで当院が実施してきた医療の質への取り組みにおいて、図書室および図書室担当者が関与した業務と成果について述べた。

法が定めた図書館および図書室担当者の業務は医療情報を含む媒体の開発・発展により、現状と大きく解離し、扱う情報量の増加と担当すべき業務が拡大している。これらに加えて、利用者の増加も業務の増大に拍車をかけている。これまでは施設内の職員のみが利用者であった。しかし、医師臨床研修義務化による研修医数の増加や、施設を利用したその他の医療職の研修も時期を問わず行われるようになり、図書室利用のための教育のために多くの時間を割かねばならなくなった。

このような状況下で、今後医療の質向上のために図書室担当者が寄与できることは何であろうか。それはこれまで同様に施設内外の医療者への有益な情報を提供することであり、新に顧客である患者および家族への適切な医療情報を提供することであろう。増え続ける業務量の中でこれらを可能にするためには、図書室担当者の情報ネットワークを密にして図書室機能の相互扶助を拡大させるとともに、施設内の業務を層別化して、ボランティアを有効活用できる業務分担制の導入が必須といえよう。

参考文献

- 1) 図書館法：<http://www.houko.com/00/01//S25/118.HTM>
- 2) 図書館法施行規則：<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S25/S25F03501000027.html>
- 3) 日本図書館統計：<http://www.jla.or.jp/statistics/>
- 4) 病院図書室研究会デスクマニュアル編集委員会：病院図書室デスクマニュアル，病

院図書室研究会, 2001

- 5) 飯田修平, 田村誠, 丸木一成(編著): 医療の質向上への確信—先進6病院の事例研究から, 日科技連出版社, 2005
- 6) ドナベディアンA.: Avedis Donabedian 講演集—医療の質の評価と向上, 日本医療機能評価機構, 1996
- 7) 米国医療の質委員会, 医学研究所: 医療の質—谷間を越えて21世紀システム, 日本評論社, 2002
- 8) JCAHO: <http://www.jointcommission.org/>
- 9) 今中雄一(監訳): 医療安全のエビデンス—患者を守る実践方策, 医学書院, 2005

- 10) 相馬孝博(監訳): 患者安全のシステムを創る—米国JCAHO推奨のノウハウ, 医学書院, 2006
- 11) 立川幸治, 阿部俊子(編集): クリニカルパスがかなえる! 医療の標準化・質の向上—記録のあり方から経営改善まで, 医学書院, 2005
- 12) CDC: <http://www.cdc.gov/>
- 13) 患者図書室: <http://www.mayoclinic.org/volunteers-rst/patient-library.html>
- 14) 患者図書室: <http://www.patientinformation.org.uk/>

論文発表

田村誠, 飯田修平, 丸木一成: 医療の質向上への確信—先進6病院の事例研究から, 日科技連出版社, 2005

飯田修平, 田村誠, 丸木一成: 医療の質向上への確信—先進6病院の事例研究から, 日科技連出版社, 2005

飯田修平, 田村誠, 丸木一成: 医療の質向上への確信—先進6病院の事例研究から, 日科技連出版社, 2005

飯田修平, 田村誠, 丸木一成: 医療の質向上への確信—先進6病院の事例研究から, 日科技連出版社, 2005

飯田修平, 田村誠, 丸木一成: 医療の質向上への確信—先進6病院の事例研究から, 日科技連出版社, 2005